

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	NPO法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 神辺		
所在地	福山市神辺町上御領391-1		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	平成28年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が閑静な田園地帯に位置している事で、穏やかに過ごして頂ける環境にある。入居者様本位に、皆様が笑顔で過ごせる様、全職員が笑顔をもっとに思いやりの介護、安心・安全の介護を実践している。日々の体操やレクリエーションにも積極的に取り組み、楽しい時間作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人で掲げる「報恩」の理念の基、職員は利用者一人一人が自分の両親であったらどのように接するのと考え、家庭的な雰囲気や大切にし、笑顔で接し、信頼関係を築き、安心して生活できるように努めている。また、台所には職員が作成した各ユニットの理念を掲げ、その日の目標を個々に立て、その一日を振り返り、日々研鑽している。毎月、利用者の様子を手紙で家族に伝え、訪問時には職員から積極的に話しかけ、信頼関係を築き、日々のケアに活かしている。医療面では協力医、訪問看護師と密に連携をとり、利用者・家族と方針を共有し、真摯に対応している。安眠対策や体調を考慮した足浴の実施、同性の職員による入浴介助を行っている。また、日常的に散歩に出かけ利用者一人ひとりに合わせた外出支援も実施している。朝、昼二回のレクリエーションでは利用者の明るい笑顔と会話が弾み和やかな雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) <sup>特定非営利活動法人 あしすと</sup>です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、その日の個人目標を順番に発表。目標の達成結果と反省をノートに書き込みスタッフ間で思いを知り理解する事が出来ている。各ユニットの理念も掲げ、職員同士が声を掛け合い理念にそった対応に努めている	法人の理念の他に各ユニットでも作成した理念を掲げ、唱和するとともに毎日順番で個人の目標を発表している。発表者は目標や気づきをノートに書き、スタッフ同士共有しあい良い刺激となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の溝掃除や行事に積極的に参加している。「子ども110番」や小・中学校の職場体験等の受け入れにも協力し、利用者子ども達との交流の場を設けている。	地域の福祉祭りや生き生きサロン、敬老会に参加している。秋祭りには地域住民が事業所を訪れ「はね踊り」を舞ってくれる。また、小学生による演芸や中学生との職場体験を通して子供たちと交流している。散歩中には地域の方が声をかけてくれたり、収穫した野菜等の差し入れもある。	中学生の職場体験や生き生きサロンなどの機会を通して、事業所からの情報発信の場と捉えて、有する知識や情報を多くの方に伝える取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に散歩したり、玄関先で日向ぼっこやレクリエーションをする姿を地域の方に見て頂き挨拶等、声掛けを大事にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。町内会長・民生委員・地域包括・介護保険課・家族会の方々に参加して頂き、利用状況や行事等を報告。頂いた意見を職員に報告し、事業所のサービス向上に努めている。	2カ月に一度偶数月に開催している。足浴や聴覚、視覚の弱い方への対応の仕方について活発な話し合いが行われている。地域包括支援センターからは多くの意見や対応策などの情報を得て運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、意見を頂いたり、介護保険課・生活福祉課などの窓口の担当者と必要に応じて日常的に連携している。	運営推進会議には毎回出席して頂いている。介護保険課や生活福祉課の窓口担当者と更新時や相談事などで連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング時に身体拘束についても話題にし拘束しないケアに努めている。帰宅願望に対しても施錠等せず、気分転換に散歩をしたり、職員同士が協力しあい対応している。	職員が利用者に対して「自分の両親であったらばどのように接するか、自宅で暮らしているように過ごして欲しい」という意識で接している。本社での研修に加えて事業所での研修も計画的におこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロ意識を持って笑顔の対応を心掛けている。気になる対応には、直ぐに注意し先送りにしない対応をしている。本社のスキルアップ研修にも取り上げているので参加し勉強した事を全職員で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用する事となった入居者が居られ学ぶ事が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類(契約書・運営規定・重要事項)を通して十分に説明を行い、疑問点を聞き納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いを大切に、家族の訪問時には現状報告をする中で、意見や要望が言い易い雰囲気作りをしている。年に1度、本社から無記名のアンケートを送付し頂いた意見や要望をミーティングで話し合い運営に反映している。	月に1度事業所から「便り」を出すとともに担当者は利用者の様子を手紙で伝え、家族との信頼関係を築いている。家族の訪問時にはホーム長が話しかけ、意見を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やミーティングで職員に意見や気付き・提案を聞き運営に取り入れている。また個々にもしっかり声掛けを行い、本音で話をする事で人間関係を築き、出された意見・提案を運営に反映している。	ミーティングには職員全員に一言発言してもらっている。出された意見はノートに書き込み共有し、運営に反映している。職員同士本音を出し合っても後に残らない人間関係を目指し声掛けを行い、気持ちを汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状況を把握し、やりがいの出る声掛けや対話を持ち、仕事に来ることが楽しいと思える環境作りに努めている。努力を認め・感謝を伝えるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回、本社で行われるスキルアップ研修に参加を促し、参加内容を他の職員にも伝達し皆で研修している。外部研修にも参加。持っている技術は、その都度、安心・安全の対応をすべく伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間での交流・研修会等で知り合った同業者とも交流を深めて、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや願い・趣味・嗜好品等を聞き取り、笑顔の声掛けや対応で不安感を持たせない様に努めている。入居時は、他者との交流の橋渡しをして、孤独感を感じさせない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの労をねぎらい、家族の思いや困っている事・要望・願いをしっかりと聞き取り、安心・安全の対応で信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居以前に関わってきた施設等でしっかり聞き取りをし、本人と面談して現在の状態を確認する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は取り上げず、見守り支援する。洗濯たたみ・机拭き等、お手伝いをして下さった時は「ありがとう」「助かります」の言葉を添えて役に立っているとの思いを感じていただける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、入居者の日頃の頑張りや様子を来所時や、手紙にしたため報告している。ご家族が来所し易い雰囲気作りを全職員が心掛け、足を運んで頂ける様な声掛けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・知人が気軽に訪ねて来易い雰囲気作りを努め、積極的に会話したり、ゲーム・体操と一緒に参加して頂くなど、入居者と関わりの出来る対応をしている。	家族・親戚・知人が訪問した際には一緒に手作業やゲームをしている。法事・結婚式等に参加しやすいように事業所から家族に提案し、職員が同行することで参加できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てる様に、職員が間に入り皆に分かり易い話題を提供し、一緒に笑える場・時間など楽しい雰囲気作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際に入居期間に撮った写真をアルバムにしてご家族にプレゼントしたり、手紙で近況をお尋ねしたり、ご家族との繋がりを大事にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	笑顔の声掛けや会話を大切に「○○したい」の思いを聞き出し、出来るだけ意に沿える様、支援している。(毛染め・散歩等)	明るい声かけや笑顔で接することで誰もが希望を表出しやすい雰囲気を作り、散歩に出かけたり、毛染めや足浴などの日々の支援に繋げている。困難な場合は表情や動きから思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの暮らしぶりを聞きとり、出来る事を取り上げる事無く、自然に生活出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り時、1人1人の心身の状態を報告し、職員全員で共有出来るよう、申し送りノートを作り漏れの無いように対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り・ミーティング等で個々の状況を確認し合い、家族の要望を反映した介護計画を作成している。	モニタリングは3か月に1回と様子が変わるたびに行い、介護計画は6ヶ月に1回見直している。日々の変化と取り組みを医師・看護師・ケアマネ・職員で情報共有して家族にも同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、申し送り時に口頭で詳しく伝え、カンファレンスに沿った介護記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態観察をしっかり行い、その方にとって1番良いであろう対応を全職員で心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生や中学生の職場体験、地域の方による理美容室を利用し、本人が生き生きと楽しく生活できる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の掛かり付け医・ホームの委託医共、連携を密にとり、状況を小まめに伝え、家族・職員も周知している。ホームの委託医が、緊急時は他の医療機関や訪問看護と連携して安心して医療が受けられる体制が出来ている。	本人及び家族が希望するかかりつけ医への受診支援を行っている。緊急時も協力医が状況に応じて搬送先を即座に決めて対応している。家族の了解を得て、他科の受診も事業所の職員が同行している。家族の意向を尊重し、事業所と協力医、訪問看護師等が連携し、安心できる医療体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1人1人の日々の状態を介護者がしっかりと把握し看護師に気づきや状態の変化を報告・相談している。受診時には、看護師が付き添い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時には、ホームの委託医に相談し入院先への対応がスムーズに出来る。入院期間には、面会に訪れ、病院関係者との情報交換や相談にも努めている。入退院の送迎は事業所で行い、ご家族に安心を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を作成し入居時に説明を行う。身体状況に変化が生じた場合は主治医からの対応を家族に説明して、家族の気持ちに伝えるべく、主治医・看護師・職員が連携し対応出来る様取り組んでいる。	事業所の指針を基に入居時に説明している。看取り希望者は多い。職員はその人らしい最期を迎えられるよう医師の指示に従い事業所の看護師、訪問看護師と連携し、酸素吸入・点滴・たん吸引など必要時、連携し対応している。家族の入室、泊りも可能にして立ち会いやすい環境を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、職員が慌てる事の無いよう、マニュアルを作成し、医師との連携を図るよう方針を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・避難訓練を隣接する小規模多機能と協力して行っている。消防署の指導の下、入居者と共に行っている。訓練は日勤帯と夜勤帯の2通りしており、消防点検も定期的に行われている。	年2回、火災・避難訓練を夜間と昼間を想定して行っている。備蓄の準備もしている。災害に備えて各居室の入口名札の裏には避難完了の紙を貼り、利用者が安全に避難できるよう対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者の立場に立った声掛けをして、尊厳と慈しみを持った対応を心掛けている。入浴介助等、同姓の職員が対応するなどの工夫もしている。	常に「自分の親であったならば」と思い対応している。一人ひとりの利用者を理解し、遠慮せずに話し合える関係を築き、その訴えに沿えるように努めている。普段から職員との人間関係を築いた上で、職員が利用者に対する言葉使いや対応に誤りがあると気付いた時に管理者がその場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から言葉以外のスキンシップにも心掛け、気を使わず思いを伝えて貰える様に対応している。散歩に出たい・夜は居室にお茶が欲しい等の希望・訴えには出来るだけ意に沿える様、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の出来る事、したい事を自分のペースでして頂き、家庭的な生活・押し付けない・取り上げない自由な生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染め・顔そり等、希望されれば出来るだけの対応をして、おしゃれする事で喜びを感じて頂ける様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き取り、メニューに取り入れたり、その時期の旬の食材を提供し、季節を感じて頂けるようにしている。野菜の皮むき・お盆吹き・机拭き等、出来る事をお手伝いして頂く事で、「一緒に」を大切にしている。	旬の野菜・果物を使いメニューに取り入れている。時には家族から野菜などの差し入れがある。食事はすべて事業所の手作りで温かみがある。利用者のペースに合わせてゆっくりと食事を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量や水分摂取量を把握し、不足している部分は好きな物や栄養補助剤を提供しバランスをとっている。要求される方には夜、お茶を居室に持ち込み夜間でも水分摂取が出来るように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、行っている。自分で出来ない方や十分なケアが出来ない方は職員が援助している。うがいが出来ず飲み込まれる方には、お茶での対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの声掛けを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。	個々の利用者の排泄パターンを把握し、パット交換等、その都度声をかけ、トイレでの排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽運動を行ったり、水分摂取量や排便チェックを記録し、早めの便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回は必ず入って頂ける様な対応をして本人の要望に応えながら、職員と一緒に歌ったり会話しながら楽しく入って頂ける雰囲気作りをしている。入浴嫌いな方には、声掛け・足浴・手浴等で工夫し入って頂ける様対応している。	週2回、一般浴と機械浴に分かれて行っている。入浴を嫌がる利用者には声かけを工夫し、異性の職員による入浴介助を嫌がる利用者には、希望を受け入れ対応している。また利用者の希望、体調管理、安眠保持のために足浴も行っている。足浴は利用者の肌の状態を知るきっかけになり、ケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて日中は自由に横になって頂き、夜間は本人の希望に沿って照明などの調節をし安心して休めるよう対応している。夜、ゆっくり休めるよう、レクリエーションで楽しんで頂く努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用に注意し状態観察に努めている。薬はお膳の上に分かり易い器に入れ、必ず服薬確認をしている。お膳に置いて置けない方は、食後に職員が声掛けし服用して頂く事にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業・散歩・読書など出来る事・したい事を把握し、毎日レクリエーションに取り入れたり、メリハリある1日となる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然環境に恵まれて車の量も少ない為、散歩や庭先に日光浴に出る等、取り組んでいる。家族の協力を得て、ベイファームへ花を観にドライブしたり、動物園に行くなどの外出も行っている。	散歩に行きやすい環境にあるので、個々の体調に合わせ、外気浴や散歩など、日常的に行っている。出かけた利用者が満足するまで一緒に付き添って散歩している。家族の協力を得て遠出をすることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しいが、家族の了解の下で職員と一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人の希望を叶えている。手紙は、職員と一緒に近所の郵便局まで散歩がてら歩いて行き投函する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎朝消毒し清潔を保っている。空調は、小まめな温度調節を行い管理している。利用者と職員で季節に合った壁面作りをし、それを飾る事で季節が感じられる様に努めている。	玄関を入るとほのかに花の香りがするなど気持ちよく過ごせる工夫をしている。共用空間の壁面には利用者で作成した貼り絵や書を飾っている。台所と利用者の距離も程よく、煮炊きの匂いや音がして家庭的な雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いたり、畳を敷いた場所作りをして、自由に使用できる環境を作っている。居室には好きな時間に戻られ、時には仲良しで居室にお邪魔し楽しく会話もされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を感じさせる居室にと、家族の写真や手作り品・使い慣れた家具等、居心地良く過ごせる工夫をしている。	床と壁の腰板が木目で気分の落ち着くつくりである。居室は明るく清潔である。利用者の使い慣れた家具や本が持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで安全にして、トイレ・洗面・居室の表示で自立した生活が出来る様に工夫している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	施設の強みを活かした地域貢献の強化	地域に開かれた施設づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設がどんな所かイベントを開き、来所して頂くことで理解を得る</li> <li>認知症に関するセミナーを開催し理解に努める</li> </ul>	12ヶ月
2	35	災害対策における地域との協力体制の強化	災害対策における地域との協力体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回行っている避難訓練に地域住民の参加を求める</li> <li>運営推進会議で防災について議題に上げ、助言を得ながら協力依頼に努める</li> </ul>	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。